

(臨床研究に関する情報)

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会で承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[研究課題名]

腹部大動脈瘤人工血管置換術後に施行する腹部末梢神経ブロックの穿刺方法の差による術後疼痛・オピオイド使用量の比較

[研究の目的] 腹部大動脈瘤(Abdominal Aortic Aneurysm:AAA)人工血管置換術は、手術の傷が大きく手術後の痛みが強いです。当施設では手術内容を考えて硬膜外麻酔は行わず、術後末梢神経ブロック(肋骨弓下腹横筋膜面ブロック:肋骨弓下 Transversus Abdominis Plane Block(TAPB))カテーテル留置と点滴からの鎮痛剤を合わせて使用することで術後鎮痛をおこなっています。近年腹部手術での末梢神経ブロックで Thoraco Abdominal nerves through Perichondrial Approach Block (TAPAB)が注目されています。本研究では、TAPAB カテーテル留置が肋骨弓下 TAPB カテーテル留置と比較して術後の痛みには差がないと仮定して、術後疼痛(Visual Analogue Scale:VAS)や術後鎮痛剤の使用量を比較検討します。

[研究の方法]

○対象となる患者様

2017 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日の間に、予定された AAA 人工血管置換術後の患者で TAPB もしくは TAPAB が施行され ICU へ入室した患者様。

○利用する検体・診療情報

術後 1 日目、2 日目、3 日目午前の VAS と各日の IV-PCA(経静脈投与 patient-controlled analgesia)の使用量、患者様自身の身長・体重・BMI や手術時間、術中のフェンタニル使用を利用します。

[情報の管理責任者]

香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック科 医員 白石 練

[研究組織]

香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック科 医員 白石 練

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口] 香川県木田郡三木町池戸 1750-1 香川大学医学
部麻酔・ペインクリニック科 担当医師 白石練 電話 087-891-2223
FAX 087-891-2417